

ヨコハマトリエンナーレ2020 アーティスティック・ディレクター ラクス・メディア・コレクティヴが登壇 講座「国際展をキュレーションすること」 2/20開催

横浜トリエンナーレ組織委員会は、横浜美術館との共催企画「美術館と国際展を巡る連続講座」を開催します。その第2回目となる2019年2月20日(水)には、ヨコハマトリエンナーレ2020 アーティスティック・ディレクター ラクス・メディア・コレクティヴのジーベシュ・バグチとモニカ・ナルラが登壇し、国際展のキュレーションについて語ります。連続講座の主催は横浜美術館、共催は横浜トリエンナーレ組織委員会、協力は横浜トリエンナーレサポーター事務局です。各回の会場は横浜美術館、参加費は無料、定員80名。

WEBサイトURLは、<https://yokohama.art.museum/event/index/data-587.html>

この機会にぜひご取材いただきたくご案内申し上げます。概要は以下の通りです。

横浜美術館×横浜トリエンナーレ組織委員会共催企画 美術館と国際展をめぐる連続講座

2月20日(水) 19:00~21:00 (開場18:30)

「国際展をキュレーションすること」 ※日英逐次通訳あり

講師:ジーベシュ・バグチ、モニカ・ナルラ

(ラクス・メディア・コレクティヴ/ヨコハマトリエンナーレ2020 アーティスティック・ディレクター)

ビエンナーレ、トリエンナーレのキュレーションは美術館の企画展とどのような違いがあるのか？国際展のキュレーションが美術館など既存制度を批評する取り組みとして機能する場合、どのようなキュレーションが有効に働くのか？

アート作品の制作、展覧会のキュレーション、パフォーマンスのプロデュース、執筆など多岐に渡って活躍し、次回の「ヨコハマトリエンナーレ2020」のアーティスティック・ディレクターに就任したラクス・メディア・コレクティヴは、マニフェスタ(2008)、上海ビエンナーレ(2016-2017)で国際展のキュレーションにも取り組んでいます。ジーベシュ・バグチとモニカ・ナルラが、これら最近の実績を紹介するとともに美術館のいわゆる企画展と国際展のキュレーションの違いについても語ります。



ラクス・メディア・コレクティヴ 撮影:田中雄一郎

主催:横浜美術館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

共催:横浜トリエンナーレ組織委員会 協力:横浜トリエンナーレサポーター事務局

ヨコハマトリエンナーレ2020

会期:2020年7月上旬~10月中旬

主催:横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

WEB:<http://www.yokohamatriennale.jp>

Twitter: @yokotori_

【横浜トリエンナーレ組織委員会 お問い合わせ先】担当:西山、高橋

E-MAIL:press@yokohamatriennale.jp

TEL 045-663-7232 (平日10:00~18:00)

横浜美術館 × 横浜トリエンナーレ組織委員会共催企画 「美術館と国際展をめぐる連続講座」

〈プログラム〉

1989年(平成元年)に開館した横浜美術館は2019年に開館30周年を迎えます。開館以来、展覧会、アトリエ、美術情報センターを基幹事業に据えつつ、時代に合わせてさまざまな新規事業を立ち上げ、充実を図ってきました。2011年からは横浜トリエンナーレという大型の国際展の主会場としても関わるようになりました。

また、横浜トリエンナーレ組織委員会は、2020年7月上旬から10月中旬まで、アーティストック・ディレクターにラクス・メディア・コレクティブを迎え、ヨコハマトリエンナーレ2020を開催します。

「美術館と国際展を巡る連続講座」では、国際展をきっかけに拡大しつつある美術館の可能性と課題について「展示 / 鑑賞」「キュレーション」「建築」をテーマに各分野の専門家を招き検証します。

【第1回】2月10日(日)13:30～15:30

「美術館という箱はオルタナティブな劇場になりうるか？」

講師：岡田利規(演劇作家 / 小説家 / チェルフィツチュ主宰)

美術館はもとも美術作品を収集、研究、展示するための専門施設ですが、現在、その機能は多様化し、いわゆる美術表現に限定されることなく、演劇、ダンス、音楽などさまざまな表現を発信する装置となりつつあります。一方、劇場もまた演劇のための専門施設ですが、表現の多様化とともに劇場以外の場所としての広がりをみせています。美術館はオルタナティブな劇場になりうるか？あるいは、美術館という場所固有の体験はありうるのか？映像演劇という新しいジャンルを開拓し、美術家とのコラボレーションも多く手掛ける岡田利規氏(「横浜トリエンナーレ2008」出品作家)を迎え、美術館とはそもそもどういう空間なのか、観客との関係性も含めて表現者が期待する美術館像をお話いただきます。

【第2回】2月20日(水)19:00～21:00

「国際展をキュレーションすること」 ※日英逐次通訳あり

講師：ジープシユ・バグチ(Jeebesh Bagchi)、モニカ・ナルラ(Monica Narula)

(ラクス・メディア・コレクティブ / ヨコハマトリエンナーレ2020 アーティストック・ディレクター)

【第3回】3月2日(土)13:30～15:30

「美術館という建築物と展覧会の関係」

講師：藤原徹平(フジワラテツペイアーキテクトラボ主宰 / 横浜国立大学大学院Y-GSA准教授)

金氏徹平(美術家 / 京都市立芸術大学彫刻専攻専任講師)

故・丹下健三の設計による横浜美術館は、横浜市制100周年、開港130周年を記念して開催された「横浜博覧会」のバビリオンのひとつとして開館しました。8階建ての建築は半円柱が目を引き中心部を基点に展示室、右端棟にはアトリエ、左端棟には美術情報センターが配置され、美術館の理念である「みる」「つくる」「まなぶ」を建物が象徴しています。このような経緯と理念で開館した横浜美術館では、2011年から現代美術の国際展「横浜トリエンナーレ」を開催するようになり、近年、大型の現代美術作品を屋内外で展示しています。「ヨコハマトリエンナーレ2017」の空間設計に携わった藤原徹平氏と横浜美術館で個展開催の経験のある美術家の金氏徹平氏に、展覧会と建築の関係について、また、アーティストがみる美術館建築の機能性や可能性について、実践を踏まえてお話いただきます。



第1回講師 岡田利規 ©宇壽山貴久子



第3回講師 (左)藤原徹平



(右)金氏徹平 撮影:川島小鳥

〈開催概要〉

参加費：無料(事前申込、先着順)

会場：横浜美術館 円形フォーラム(第1回、3回)、レクチャーホール(第2回)

WEBサイト：<https://yokohama.art.museum/event/index/data-587.html>

申込方法：WEBサイトからお申し込みください。

* お申込1名様につき1つのメールアドレスが必要です。

同じメールアドレスで同じ回への複数名のお申込はできませんのでご注意ください。

取材申し込み用紙

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 行

FAX : 045-681-7606 E-MAIL : press@yokohamatriennale.jp

2/20(水)ラクス・メディア・コレクティブ講座

※本用紙に必要な事項をご記入の上、2019年2月19日(火)15時までにFAXにてご返信くださいますようお願い申し上げます。

ご芳名(ふりがな)	
貴社名・部署名	
貴媒体名	
ご参加人数	計 名
ご住所	〒 ー
TEL / FAX	TEL. FAX.
E-MAIL	@
撮影	有 <input type="checkbox"/> 動画 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> その他() ・ 無 <small>※ストリーミング中継等は、お断りさせていただきます。 ※動画撮影の方は事前にお知らせください。</small>
掲載予定 媒体名・掲載日	確定 ・ 予定 ・ 検討
	媒体ジャンル テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・フリーペーパー・WEB その他()
	放送・掲載予定日 年 月 日() :
備考	※ご担当者様、住所などの変更事項がございましたらお書き添えください。

個人情報の取扱いについて

- 1.ご明記いただいた個人情報は、法令およびその他の規範に従い適正に管理し、横浜トリエンナーレ組織委員会の広報活動の目的に限って利用します。
- 2.上記1の利用において、提携先、業務委託先等に個人情報を提供する場合がございます。
- 3.業務委託先等に個人情報を提供する場合、その委託先に対し、個人情報の安全な管理を義務付け、必要かつ適切な監督を行います。

【横浜トリエンナーレ組織委員会 お問い合わせ先】 担当:西山、高橋

E-MAIL : press@yokohamatriennale.jp TEL 045-663-7232 (平日10:00~18:00)